

こぼれ話

— 馬鈴薯はジャガイモではない —

ジャガイモのことを馬鈴薯と稱しているが、これは大変な間違いであると指摘されたのが牧野富太郎博士である。

牧野博士は明治時代に書いた「植物裁判」という一文の中に「我日本では今日誰れでもジャガイモのことを馬鈴薯と稱して疑わず、常にこの漢名を用いて平気であるが、是れはトンデモナイ誤りでこの事実を知った人から見ると、堂々と使っている博士様の学者から、下女、下男、ネコ、シャクシに至るまで何と間抜けて見えて仕方がない」と書いている。また、1998年、博品社発行の牧野富太郎著「植物一日一題」には「ジャガイモは断じて馬鈴薯でないことは明白な事実で、こんな間違った名を平気で使っているのはおろかな話で、日本文化の恥辱でなくてなんであろう」とまで断言している。因みに牧野新日本植物図鑑（北隆館発行1989年）でも馬鈴薯はジャガイモとは別の植物であると記している。

では、馬鈴薯は何故ジャガイモではないかを牧野博士の「植物裁判」で探って見た。ジャガイモは馬鈴薯であると云ったのは、徳川時代の文化5年頃（1808年）に本草学者の小野蘭山であった。当時蘭山は本草学では有名だったので、この人の説だから一も二もなく世人がこれを信じ、それが連綿として今日まで伝わったという。しかしこの蘭山が馬鈴薯と名付けたのはジャガイモを漢字で表そうとして、中国の書物「松溪県志」を見てそれに記されていた「馬鈴薯ハ葉ハ樹ニ依リテ生ズ之ヲ掘り取レバ形ニ小大アリテ略ボ鈴子ノ如シ色黒クシテ円ク味ハ苦甘アリ」これをジャガイモのことだと断じて、ジャガイモに

馬鈴薯の漢字を当てたものだといわれる。しかし、ここに記してある植物は葉は樹に依りて生ずとあり、これはつるになって木にからみつくことを表し、地下の芋は色黒くして苦甘なりとあるが、ジャガイモの芋は白く、苦味がない。従って中国で馬鈴薯と呼ぶ植物はホドイモ（豆科の植物）に似た植物ではないかと牧野博士は推察した。なお、中国ではジャガイモは洋芋、荷蘭薯（オランダの意）と呼ばれている。若し中国でもジャガイモを馬鈴薯と稱する人がいたら、これは日本からの逆輸入の名前であると牧野博士は言う。

これらのことによって、馬鈴薯というのは決してジャガイモのことではなく、別の植物であってジャガイモを馬鈴薯と呼ぶのは大きな間違いだという訳である。

また、牧野博士は「植物裁判」で、ジャガイモの方言をいくつかあげているが少し紹介するとジャガイモは昔から山間部の他の作物があまり育たない場所でもよく生育し、栽培されたことから甲州イモ、信州イモ、上州イモ、秩父イモ、伊豆イモなど地名のものからオタスケイモ、コウボウイモ、六升イモ、八斗イモ、など救荒作物としての名、面白いところではキングマイモ、寿命イモなどがある。

なお、ジャガイモの芋は植物学上は塊茎と稱し、地中の枝の先にふくらみができて養分を貯えたもので枝（茎）の一部である。また、これと似たサツマイモの芋は根がふくらんで養分を貯えた根である。

（追記）馬鈴薯の名稱は三省堂発行の「大辞林」（1988年）、岩波書店発行の「広辞苑」（1995年）でもジャガイモを馬鈴薯として記載している。

⑦